

[ピラミッドだより]

## 日本農産工業ピラミッド農場の豚コレラ発生後の防疫体制について

櫻井 忠（日本農産工業(株)畜産技術センター）

All about SWINE 55, 29-30

### 豚コレラの発生経緯と問題点

2018年9月に国内で26年ぶりに発生が確認された豚コレラは、1年後には初発地域を中心に1府6県で40例の発生が確認され、13万4千頭余りの豚が処分される事態となった。今回の発生では、豚コレラウイルスの病原性が弱く、野生イノシシへの感染もあるため、豚コレラ発生地域の拡がり懸念されている。

農林水産省は2019年9月に豚コレラ終息に向けた対策として、野生イノシシ対策、感染経路遮断対策、感受性動物対策、早期経営再開の後押し、水際検疫体制強化を掲げた。しかし、これらの対策によって終息の兆しが見えるまではしばらく時間を要すると思われる。

### 現状の防疫体制

日本農産工業ピラミッドの中核である(株)ファームテックの農場は日本SPF協会が定めた防疫設備基準、防疫管理基準に準拠した防疫体制を敷いている。豚コレラ発生後、豚運搬車両が病原体に汚染される危険度の低いルートを選択するようになった点を除けば大きな防疫体制の変更はしていない。

農場では防疫管理基準、防疫設備基準に基づ

き、飼養衛生管理基準の衛生管理区域に相当するSPFエリアを規定し、病原体の侵入リスクを最小限にするために農場全体（敷地、サブエリア、SPFエリア）の衛生環境の整備と維持に努めている。

### 今後の防疫体制の課題

豚コレラは今のところ岐阜県、愛知県を中心とした地域限定的な発生であるため、離れた地域では強い関心はあるが「対岸の火事」ととらわれがちである。

しかし、今回の豚コレラ発生が人や物品を介した海外からのウイルス侵入が発端であれば全国どこでも発生する可能性があり、アフリカ豚コレラや口蹄疫にも当てはまる。また、いかなる農場でもイノシシをはじめとする野生動物、人、車両等の関わりは避けて通れない。したがって、SPF豚農場が防疫設備基準、防疫管理基準に準拠して飼養衛生管理基準を満たしていても農場に豚コレラが侵入するリスクは決してゼロにはならない。

今後のピラミッド農場の防疫体制の課題は、豚コレラ侵入に対する緊張感、危機感を農場現場に持たせ、防疫体制を緩ませないで維持するか、マンネリ化させないかになる。防疫体制に不備が見

つかった場合は速やかに対処するとともに、国内  
外の最近情報を共有すること、豚コレラ・アフリ  
カ豚コレラを十分理解すること、異常発生時の行  
動体制確認しておくこと等は特に重要な事項であ  
る。